

支援学級を含む少人数の教育政策 (小規模校問題)

～ 中宮北小学校の現状について ～

住民代表	:	宮田 英作
自治会	:	レオグランデ
役職	:	中宮北小学校PTA 副会長 いきいき広場運営委員会 会長 コミュニティ運営委員会 委員 統廃合検討委員会 委員

学校 ≠ 塾



友達との交流や活動を通して
『**社会性**』を育てるところ

■ 適正規模について

	文部科学省が定める標準規模	世界保健機関の分析結果
学校規模	—	100 人を上回らない規模
クラス数	おおむね 12 学級以上 18 学級以下	—
1 クラスあたりの人数	4 年生まで : 35 人以下 5,6 年生 : 40 人以下	—

■ 『適正規模』の歴史

文部科学省が定めた規模は 1956 年に決められた。

当時は『12 ~ 18 学級が学問的・科学的な見地から最適であるというのではなく、

経験的に望ましいということ』と説明されている。

■ 文部科学省の手引き（抜粋）

『一口に標準規模未満の学校といっても、実際には抱える課題に大きな違いがあります。

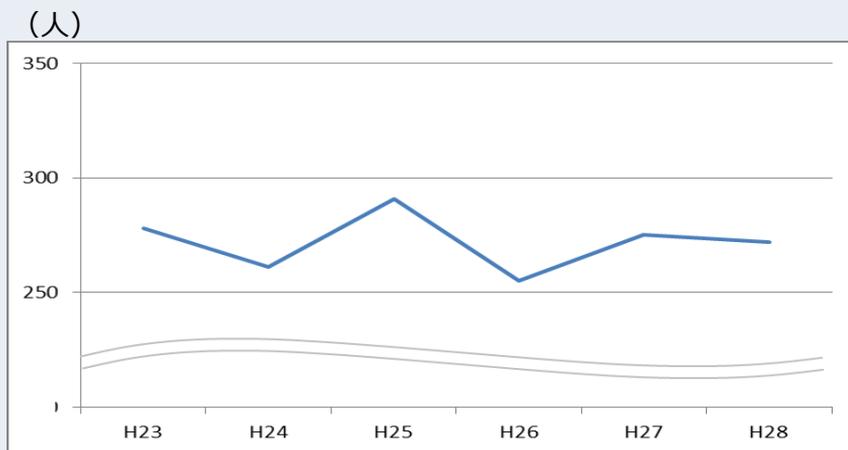
このため、学校規模的成果の検討に際しては、**12 学級を下回るか否かだけでなく、**

12 学級を下回る程度に応じて、具体的にどのような教育上の課題があるのかを

考えていく必要があります。』

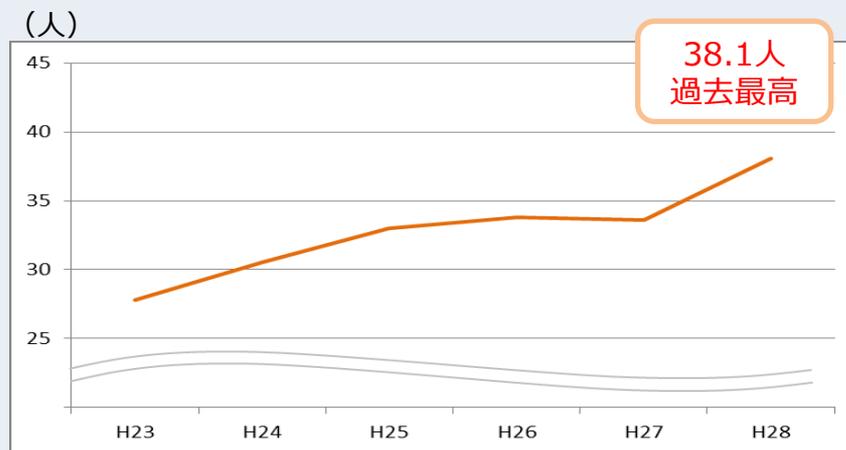
■ 推移

児童数（特別支援学級含む）



児童数は横ばい

いきいき広場の平均参加人数



年々増加

友達との交流や活動を通して
『**社会性**』を育てている証拠

■ PTA 加入率と給食費支払い率

内容	中宮北小学校
PTA 加入率	100 %
給食費支払い率	100 %



中宮北小学校は保護者も
積極的に子どもへの教育に参加

■ 実例

- ✓ 配慮が必要な児童も安心していきいき広場に参加している
（今年度延べ 75 人）
- ✓ 納涼祭、クイズラリー、餅つき大会といった恒例行事も児童の参加率が非常に高い
- ✓ 大人が子どもの顔と名前を覚えることで、また連携することで地域の人々が犯罪から守っている



中宮北小学校は
小規模校ならではの
地域教育を実践

コミュニティ



保護者

子ども

■ 疑問や意見

- ✓ **中宮北小学校は統合する必要性はない**
- ✓ 地域住民や子どもを増やす**枚方市の施策**はどうなってるの？
教育委員会は、そことはどのような連携をしているの？
- ✓ 教育部は地域一体型の『コミュニティ・スクール』を提唱している。
管理部が打ち出した統合化は逆行しているのではないか。
- ✓ 「**行政が定める適正規模**」と「**学校統合基準**」が一致している。

(例)

老朽化により校舎を建て替える必要がある場合、**老朽化対策を目的**とすれば国の補助金は 1/3 負担、**統合を目的**とすれば国の補助金は 1/2 負担となる。

いずれにせよ費用負担は枚方市。去年 6 月の説明会で反発意見が多くあったように、私たちには無理やり高陵に統合する方向に持っていかれているように見えて仕方が無い。

「5 つの視点から」と説明されていたが、枚方市の財務事情が影響していないことを証明してほしい。